慶應義塾大学出版会　イチ押し
2023年8月新刊のご案内

教育／社会問題 ご担当者さま

教育のリアル（仮）
現場の声とエビデンスを探る

内田良（名古屋大学大学院教育発達科学研究科教授）［著］

四六判並製／ 240頁　税込予価 1,980円　ISBN978-4-7664-2905-3　C0037

☞ココに注目！

- **子どもを黙らせる……日本の教育現場！！**
- **疲弊する教師たち、ブラック校則・部活、感染症――危機をどのように乗り越えるのか！？**

厳しい部活動や校則で子どもたちを学校が管理する状況を、著者は「学校依存社会」と呼ぶ。これは、学校に対して保護者や地域住民が多大な教育期待を寄せる「教育万能主義」が発動した状態である。この状況によってどんな問題が引き起こされるのか。そして、コロナ禍でその状態はどう変化したのか。
子どもたちをめぐるアクチュアルな問題を正面から取り上げる、学校関係者への問題提起の書。

対象　一般（教育関係者、保護者）

類書　内田良『部活動の社会学』（岩波書店）

【営業部からのおすすめポイント】

本書は、弊社刊行の雑誌『教育と医学』リニューアルの際に開始した18回の連載を書籍化したものです。著者の既刊書は、ワンイシュー・ワンテーマのものが多いですが、今回は学校をめぐる問題を広範囲に扱っています。連載の途中からは、コロナ禍と同時進行だったため、当時の記録としても興味深く読める作品。教育問題・社会問題を鋭く切り取る内容ですので、動き出しにぜひご期待ください！　（中島）

☞主要目次、注文書を裏面に掲載！　ぜひご確認ください！

【主要目次】

はじめに

第 1 部　学校と「臨床」

1　「臨床」という幻想
2　丸裸の先生が学校を変えていく
3　見えざる部活動のリアル――個人／組織の観点から

第 2 部　部活動はだれのためか

4　見えざる部活動のリアル――「ケガはつきもの」というあきらめ
5　部活動という聖域
6　「外部化」幻想の落とし穴
7　部活動――だれにとっての問題か

第 3 部　コロナ禍の学校

8　インフルエンザにかからない方法――マネジメントがリスクを生み出す !?
9　私は感染しているのか、ウイルスはどこにいるのか――未知なるものを読み解く力
10　リスクのアンテナ――「安全」な学校再開は可能か？
11　誰が子どもを黙らせているのか

第 4 部　校則は変わるのか

12　校則という桎梏 (しっこく)
13　コロナ禍が校則を動かした
14　私生活への越権的な介入――「学校依存社会」を読み解く

第 5 部　虐待といじめの真実はどこにあるのか

15　コロナ禍における子ども虐待の「消える化」現象
16　減少する子ども虐待、増大する危機感
17　安全の格差、子どもの受難――虐待といじめの地域差に迫る
18　学者は真実を知っている?――いじめのウソとマコトに迫る

あとがき

ご注文は FAX で！　03 ー 3451 ー 3124

新刊委託	番線	ご注文部数	発行所：慶應義塾大学出版会	税込予価	部数
			内田良 著 教育のリアル（仮） ―現場の声とエビデンスを探る ISBN978-4-7664-2905-3　C0037	1,980 円	★★★ ★★★

★ 1 つで「500 部」を表します